

見其面、庭中禮拜天地四方、共飲鹽汁、誓曰、將以七月二日闔頭發兵、圍內相宅、殺劫、即圍大殿、退皇太子、次傾皇太后宮、而取鈴璽、即召右大臣將使號令、然後廢帝、簡四王中、立以為君、於是追被告人等隨來、悉禁著、各置別處、一一勘問、

〔水鏡〕下天平勝寶九年四月に、大臣以下を召て、東宮にはたれをかたてたてまつるべきとさだめ申べきよしおほせ事あり、略中かくてのち、この東宮にえらびすてられたまひつる王たち、又心ざしある人々、あまたよりあひて、みかど東宮をかたぶけたてまつり、仲麻呂をうしなはんとすといふ事、おのづからもれきこえしかば、なかまろ内にまゐりてこのよしを申しかば、さまざまのつみをおこなはれき、

〔大鏡〕清一和つぎのみかど清和天皇と申ける、略中ち、みかど德位につかせ給ひて、五日といふ日生れ給へりけんこそ、いかにをりさへはなやかにめでたかりけんとおぼえ侍れ、これたかの御子の東宮あらそひし給へりけんも、この御事とこそおぼゆれ、

〔大鏡裏書〕四品惟高親王東宮諍事

文德天皇第一皇子、母從四位下紀靜子、正四位下名虎女、嘉祥三年十一月廿五日戊戌、惟仁親王清

和為皇太子、誕生之後九箇月也、先是有童謠云、大枝於超天奔超天騰加利躍土利超天我耶護毛留

田仁耶搜阿佐食母志岐耶雌雄伊志岐耶識者以為大枝謂大兄也、是時文德天皇有四皇子、第一惟

高、第二惟條、第三惟彥、第四惟仁、天意若曰、超三兄而立、故有此三超之謠焉、承平元年九月四日夕、參

議實賴朝臣來也、談及古事、陳云、文德天皇最愛惟高親王、于時太子幼冲、帝欲先暫立惟高親王、而太

子長壯時、還繼洪基、其時先太政大臣良原作太子祖父、為朝重臣、帝憚未發、太政大臣憂之、欲使太

子辭讓、是時藤原三仁善天文諫、大臣曰、懸象無變事、必不遂焉、爰帝召信大臣清談良久、乃命以立惟

高親王之趣、信大臣奏曰、太子若有罪、須廢黜、更不還立、若無罪、亦不可立他人、臣不敢奉詔、帝甚不悅、